VGC-2655（H）型　2連棟

建築面積	28.17m²（8.52坪）	（間口柱芯寸法）×（奥行柱芯寸法）

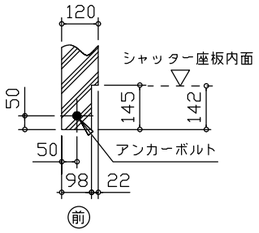
構造耐力上主要な部分の部材

部　材　名	形　状	板　厚	使用材料	有効細長比
前　柱	□-85 x 115	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	70.0
後　柱	⌊-115 x 115	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	55.0
中 柱（左右）	⊏-85 x 84	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	76.6
後 柱（中）	⊏-85 x 84	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	74.5
前 柱（中）	□-85 x 85	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	81.1
桁　前	⌑-336.5 x 79	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
桁　中	⊏-182.5 x 79	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
桁　後	⊏-155 x 85	1.2mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板 CGLCC	
梁	⌶-310 x 114	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
壁パネル	⌣-25 x 701(350.5)	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板 CGLCC	
ブレース	――	7.0φ	JIS G3101一般構造用圧延鋼材 SS400	
ターンバックル	――	7.0φ用	JIS A5541建築用ターンバックル胴 STKM	
アンカープレート	――	6.0mm 9.0mm	JIS G3101一般構造用圧延鋼材 SS400	

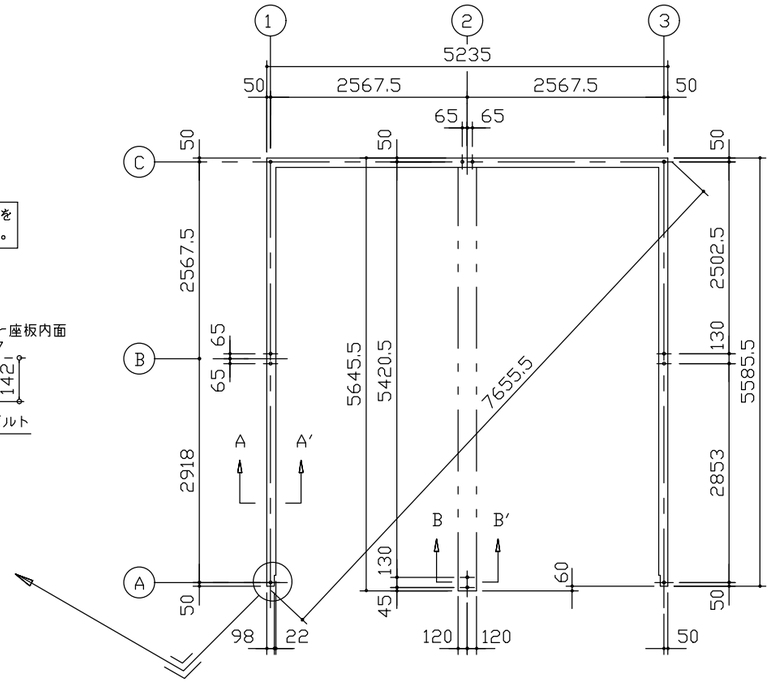
構造耐力上主要な部分以外の部材

部　材　名	形　状	板　厚	使用材料
上　枠	⌈-430 x 55	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板 CGLCC
下　枠	⌈⌉-81 x 64	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板 CGLCC
中柱カバー	⌣-26 x 145	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板 CGLCC
間　柱	⊏-31 x 24	1.2mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板 CGLCC
屋　根	⌇ -88 x 600	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板 CGLCC
シャッタースラット	⌈ -14.5 x 71	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板 CGLCC
鼻 隠 し 前	⊏-130 x 113	0.6mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板 CGLCC
鼻 隠 し 後	⊏-122 x 48	0.5mm	塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板（ツートンカラー）
ケ ラ バ	⌐-130 x 135.5	0.5mm	塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛めっき鋼板（ツートンカラー）

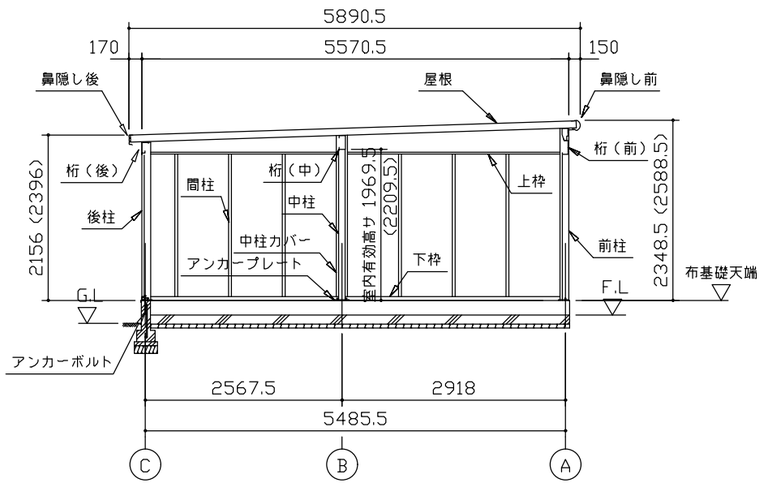
シャッター降下面は土間を水平に仕上げてください。



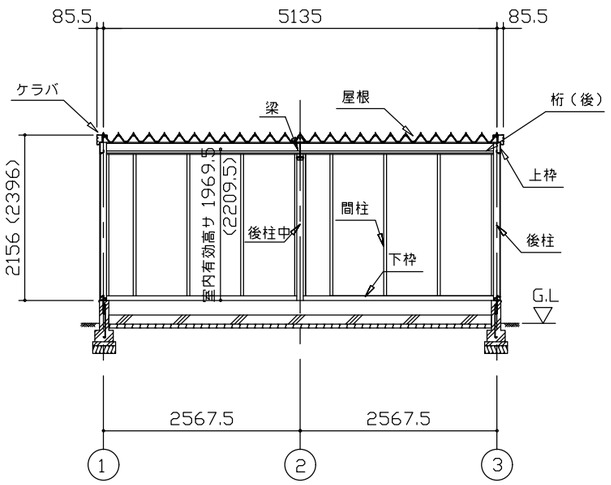
シャッター部分詳細図
（ S =1/20 ）



布 基 礎 伏 図　（S= 1/80）



側 面 断 面 図（S= 1/80）



正 面 断 面 図（S= 1/80）

・布基礎断面図　縮尺=1/20

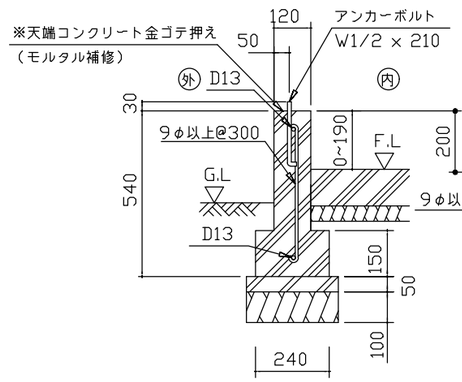
（地耐力　50KN/m²以上,コンクリート設計基準強度　18N/mm² 以上
基準風速 34m/s，地表面粗度区分Ⅱ）

＜上記条件での参考図です。＞

注１）地耐力が 50kN/m² 未満（30kN/m² 以上）
　　の場合は、地耐力に応じた基礎を設計して下さい。

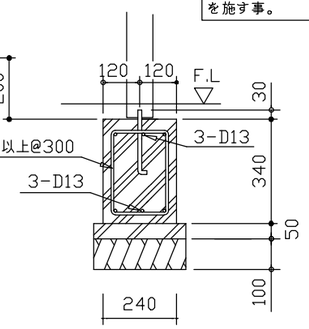
注２）寒冷地の場合、凍結深度等を考慮し、実情に
　　あわせて設計して下さい。

注３）その他現地の実情にあわせて設計して下さい。



A ～ A′断面

アンカーボルトの止結は、ダブルナット等の戻り止めを施す事。



B ～ B′断面

°（ ）内寸法ハ、Hタイプヲ示ス。

° 有効高サハ、基礎高サヲ含ミマセン。

名　称	ヨドガレージ ラヴィージュⅢ
機種名	VGC-2655(H)型（2連棟）

株式会社 淀川製鋼所

＜VGC−2655−2−B_2.DXF＞